

# 大学の世界展開力強化事業 構想概要 愛媛大学

【構想の名称】(選定年度24年度・申請区分(Ⅰ))

日本・インドネシアの農山漁村で展開する6大学協働サービスラーニング・プログラム

【プログラムの目的・養成する人材像】

地域に立脚して一次産業を中心とした未来社会の持続的発展に貢献できる国際的なサーバント・リーダーを養成する。

【構想の概要】

日本・インドネシア6大学で構成するコンソーシアムの下で両国の学士・修士課程の学生が、一緒に1週間から3ヶ月以上にわたり地域コミュニティに滞在して、現実の課題に取り組むサービスラーニングを実践する。修士・博士課程においては、共同学位(Joint Degree/Double Degree)プログラムを構築し、農学分野の実践的なフィールド調査・研究を行う。

## ■ 質の保証を伴った大学間交流の枠組形成に向けた取組

### ○ 事業統括組織による日本・インドネシア共同評価・PDCAサイクルの構築

サービスラーニング・プログラムは、各大学が全学的に管理し、継続的な教育効果の評価・改善・相互チェックをSUIJIコンソーシアム・サーバントリーダー養成センターが統括する。

### ○ 透明性、客観性の高い厳格な成績管理

日本・インドネシアの教員が同様の基準でラーニング・ポートフォリオでの到達度評価を行い、相互にチェックする。集約したポートフォリオの結果は、インターネットなどを利用したシステムとして、「就学支援システム」同様に一元的に管理する。

### ○ 単位の相互認定による評価

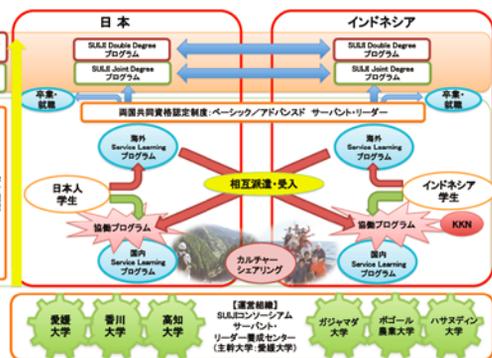
地域住民とのコミュニケーション、多様な専門分野を背景に持つ学生どうしのグループワークなどを学生の日誌や英語による成果報告に基づき評価。

〈インドネシア海フィールド実習〉



## ■ 交流プログラムの内容、今後の開始に向けた準備状況

〈構成大学と交流プログラムの内容〉



### ○ 農山漁村サービスラーニング・プログラム

学生が主体となって農山漁村に入り、地域コミュニティの人々にヒアリングしながら問題群を発掘し、多様な主体との協調を通じて持続可能な未来社会のビジョンをデザインして、解決策を提示して実行に移す活動を実践。サーバントリーダーの資格を認定。

### ○ 大学院JD・DDプログラム

日本・インドネシア双方で共同研究が可能な6教育研究分野(森林、水循環、土壌、食品科学、植物環境制御、海洋生産)でJD・DDプログラムをスタート。

### ○ 6大学コンソーシアムの形成と共同統括を組織

日本・インドネシア6大学(愛媛大、香川大、高知大、ガジャマダ大、ボゴール農業大、ハサヌディン大)で構成するコンソーシアム(SUIJI: Six University Initiative Japan-Indonesia)のもとに、サーバントリーダー養成センターを組織。

## ■ 交流プログラムにおける学生のモビリティ

### ○ 日本人学生の派遣と外国人留学生の受入れ

派遣・受入れともに、シンメトリック・プログラムを構築して実施。日本インドネシアで学士課程の2年次と4年次に3週間以上の海外サービスラーニングを実施。

	H24	H25	H26	H27	H28
学生の派遣	31	51	69	80	97
学生の受入	28	37	55	61	69

(注)申請時の計画

修士課程では、相手国において日本・インドネシアで共同して開講する単位互換必修科目の履修と、コーディネート能力の育成を図るサービスラーニング・プログラムに参加。約1年の相手国農山漁村地域での研究を実施。

## ■ 日本人学生の派遣・留学生の受入を促進するための環境整備

### ○ 統括組織「サーバントリーダー養成センター」による学生サポート

サーバントリーダー養成センターに配属する5名の専任教員により、カリキュラムの運営、資格の認定と管理、さらに国際基準に基づく質の保証を伴った協働教育の実施体制を構築。

### ○ 愛媛・インドネシア友好協会を通じた産官学連携体制による学生サポート

友好協会を通じて産官学との連携をはかり、外国人学生の企業体験の確保。また、インドネシアに進出している企業からの協力を得て、日本人学生の現地就職説明会を実施。

## ■ 教育内容の可視化・成果の普及

### ○ 6大学コンソーシアムSUIJI主催によるSUIJIセミナーを通じて世界に成果を発信

構成6大学が毎年輪番制で主催するSUIJIセミナーを毎年実施。学生代表によるサービスラーニング成果報告を実施する「学生フォーラム」、学生と教員による研究成果を報告する「学術フォーラム」と両フォーラムの成果を受けて6大学長会議でPDCAサイクルを実施する。